

西日本新聞

Gohの 名店の味を 冷蔵庫食材で おつまみフレンチ 書店で好評発売中 ●出版部

2018年 1月7日 (日曜日)

福岡病院

福岡県福岡市花見が浜一丁目5番1号 0940(42)0145(代表)

Weather forecast table for various regions including Fukuoka, Kitakyushu, and Kyushu.

再生の光で 起業探る

復活可能性 都市へ 消滅 ここ生きる



太陽光パネルが一面を埋める共有原野。荒木和久さん(右)ら水増集落の住民たちで設置を決めた。熊本県山都町

共有原野と互助を力に

奥深い山里に、近代的な「鏡の山」が突如現れる。九州のへそに当たる熊本県山都町。800年の歴史を持つ水増集落の高低原野には、8千枚の太陽光発電パネルがびっしりと張り付いている。10世帯18人の小集落。うち8軒が共同で所有する原野は、牛の放牧が戦後しばらくして途絶えた。毎年春の集落総出の野焼きだけは何とか続けてきたが、腰を折ってよじ登る急斜面は、平均年齢73歳の体には厳しい。原野は荒れた。集落の荒木和久(71)は、福島第一原発事故後に増えた再生可能エネルギーの二ユースが気になっていた。「少しでも金を回そう」。

メカソーラー建設には中国や東京など大手を含む十数社が名乗りを上げた。多くが年間500万円前後の原野の賃借料を提示した。ベンチャー企業「ティクエナジーコーポレーション」(熊本県菊陽町)は違った。賃借料500万円に加え、売電収入の5%を別枠にして会社と集落の共同事業を始め、農産物加工などに活用する計画を提案した。「少しでも金を回そう」。

ティクエ社長の竹元茂一(65)の呼び掛けに、近い将来の集落の消滅を予感していた住民たちは奮い立った。「子や孫が安心して戻ってこれるような仕事をつくる」。限界集落に、復活のろしが上がった。2013年、地権者たちで「水増ソーラーパーク管理組合」を設立、荒木は組合長になった。集落でほそぼそと作られていた大豆が希少種と分かれ、「八天狗」と商標登録。納豆や煮豆を「幻の大豆」として販売する計画にも乗り出した。昨年末の屋下がり、パネ

ルそばに立つ神社を参った荒木たちが公民館に集まった。長机には、お神酒の1升瓶とおでんや漬物。荒木しずよ(67)が、石油ストーブにかけた鍋から熱かんを取り出した。しずよの夫正二(67)、荒木久美子(72)らのおしゃべりは、世間話から集落の未来へと熱を帯びていった。「今ままで良かわけな。大豆とかタケノコの加工品ば作って、営業に回って、さるかんと」。1、2年で何でも実現できん。一歩ずつな。寄り合いはいつもの。一升瓶は見る間に減った。

星野仙一さん死去

3球団で優勝監督 楽天では日本一

70歳



プロ野球中日のエースとして「燃える男」、中日、阪神、楽天の監督では「闘将」と呼ばれ、2013年

民間シンクタンクが2014年、急激な人口減少に陥る自治体として、九州の半数に当たる125市区町村を「消滅可能性都市」と指摘した。その衝撃から3年半。名指された都市であっても、地域で、集落で、再生に取り組む人たちがいる。「復活可能性都市」を目指す新たな息吹を、九州の現場で探した。

に楽天を率いて球団創設9年目で初の日本一に導いた星野仙一(ほしの・せんいち)氏が4日午前5時25分に死去した。70歳。岡山県出身。密葬は6日、近親者で行った。後日、お別れの会を開く予定。

【13、22面に関連記事】楽天によると16年7月に急性膵炎(すいえん)を発